

平成30年2月28日

宇部市長 様

宇部市地域創生事業助成金実績報告書



団体名 NPO 厚東ネット
代表者氏名 代表理事 原野 清正

平成29年6月30日付け宇市活第155号に係る事業が次のとおり完了したので報告します。

事業名	世界サマースクール in KOTO 2017
事業の完了年月日	2018年2月28日
事業の総括について	<p>2017年7月15日厚東小学校を会場に開催した。世界11ヶ国(スペイン、アメリカ、インド、インドネシア、エジプト、タイ、中国、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、モンゴル)から40名の外国の人々が厚東の地に集いました。</p> <p>最大の特徴は、外国の方40名に対して厚東小学校の児童が50名参加、校区外からも子ども達も20名以上が参加、さらに、厚東川中学校の全生徒65名、そして宇部高校2年生も8名が参加してくれたことです。</p> <p>正に「小・中・高」と「外国」と「地域」が一つになり300人を超える国際交流の場でした。</p>



事業の達成度について
(参加人数等)

外国の人・・・・・・・・・・40名
厚東小学校の児童・・・・・・・・50名
校区外の児童・・・・・・・・20名
厚東川中学校の全生徒・・65名
宇部高校2年生・・・・・・・・8名
地元住民・・・・・・・・・・117名

総勢300人が厚東に集い、大成功でした。

宇部市長 久保田 后子様も開会セレモニーと最初のプログラムに参加いただき、励ましのお言葉も頂戴しました。



助成事業等の効果について
(期待した効果は得られたか)

総括

厚東校区の自慢は、自然や人の心の豊かさです。その豊かさを土台に「教育環境」を高め、ローカルな視点とグローバルな視野を併せ持つ人材を育てることが世界サマースクールの狙いです。狙いどおり厚東の地で外国の方々との国際交流は、子ども達にとってはとても貴重な体験となりました。

このことが厚東教育の魅力となり、厚東小の児童を増やすことにつながり、若い世代が厚東で子育てしたいと実感してもらえれば厚東の明るい未来が必ず来ると信じます。

この取組みは、NPO厚東ネット、厚東小学校運営協議会、厚東小学校、厚東川中学校、そして地域がスクラムを組み、大成功に導きました。

4回の実行委員会を重ねて、周到な準備をし、厚東の力が一つになり、世界が厚東にやって来た感動の一日でした。

成功に向けた協力体制が成功の要因

盛会理に終えた「世界サマースクール in KOTO 2017」には裏に表に大きな支えになっていただいた沢山の方々がおられます。



それぞれの立場で役割分担が 100% 発揮され、各ポジション間との連携がとてもスムーズで、タイムスケジュールも計ったように正確に流れました。チーム力、団結力が厚東の自慢です。その活躍は以下のとおりです。

①厚東小学校と厚東川中学校の先生方

両校の校長先生をはじめ、たくさんの教職員の方々に参加願い、子ども達の動きや役割に目をかけ、声をかけて導いていただきました。

②厚東川中学校の生徒のみなさん

中学生の夢太鼓の一糸乱れぬ躍動感ある太鼓演奏は外国の方々も感動でした。

中学生の受付、ソーメン流し、かかしづくり、ゲーム、かき氷の提供、お茶コーナーなど各場所でのボランティア協力はとても大きな運営の力になりました。小学生から中学生になると、その成長はとても頼もしいものがあります。

③竹林ボランティアのみなさん

暑い中、前日からの竹の切り出し、当日のソーメン流しの設営などのチームワークは抜群で、たくさんの汗をかいていただきました。

ソーメン流しができるのは竹林ボランティアのみなさんのお蔭です。

④厚東小 PTA 子供会役員のみなさん

役員を中心とした皆様には、当日までの諸準備・買い出し、当日の段取りの良さは安心して任せられました。特に「かかしづくり」に関しては、麦わらや芯となる竹の準備、かかしに着せる衣服などの収集、かかしの審査方法のユニークさ、発表などすべてお任せしましたが完璧な



行動力でした。

どの子もわが子のように親の頑張りはずごく、PTA、子ども会の保護者の力はとても心強いものがありました。リーダーシップもしっかりしていました。厚東の次の世代を担われる小学生の保護者のみなさんを頼もしく思います。

⑤母親クラブのみなさん

世界サマースクールの大人気のソーメン流し、昨年は200人分、今回は250人分を予想していましたが、参加者が300人を大きく超え、ソーメンが足りないうれしい悲鳴でした。

そのソーメンの買い出しから当日の準備、予想の250人分の「むすび」等の食事に関して一切を引き受けていただきました。

任せて安心の母親クラブのみなさんのお力は、これまでの育児経験に裏付されたおかあさん匠の集まりでした。

⑥おやじの会のみなさん

厚東の次の世代を担うおやじの会のメンバーの力はとても頼もしく、既にPTAや子供会を経験されている目線で、率先して目配りをしていただき感謝です。次のNPO厚東ネットを担う人たちです。

⑧宇部高校の生徒さん

2年生SGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）の8名が参加してくれました。宇部高校とは昨年からの第2回からご縁ができ、今回もボランティアとして応援していただきました。

この中に厚東川中学校出身の生徒がいて、お世話してくれる嬉しさがありました。



受付での外国の方の名札書き、全体の司会進行などに協力をいただき、司会での英訳アナウンスもとても発音がきれいでした。さすがSGHの生徒だと感心しました。社会でグローバルに活躍されると期待しています。

⑨通訳の方

今回の司会通訳を宇部興産中央病院脳外科Drと山口大学医学部附属病院麻酔科Drのお二人（ご夫婦）にお願いしました。児童の歓迎の挨拶やお礼の言葉も同時英語通訳していただき、国際色ある雰囲気会場一杯でした。

このように、みんなの力で世界サマースクールを成功に導くことができました。久保田宇部市長も優先して厚東にお越しになり有難く思います。小さな厚東を世界に発信できた一日でした。



評価や反省を踏まえた今後の展望

この貴重な体験を子ども達に味わってもらう場づくりには子ども達の成長を夢見る大きなロマンが力となります。多くの人の手も必要です。厚東は「チーム厚東」がしてくれることを誇りに思います。継続こそ力、継続こそが志の原点であり子ども達や中学生達の成長の土壌となると信じています。

確かに7月の夏は暑い、行事も重なり子ども達も親もきつい季節、世界サマースクールも次回は3回目、夏のサマーでなくても世界の集いは季節を変えてもできます。次の3回目は新たな形で多くの外国人を厚東に招き、子ども達や地域と交流できる場を創造しています。「企画想像力」「厚東のチーム力」「マネジメント力」がまた問われることとなります。



厚東における国際/英語教育の強化、教育を軸とする地域活性化を、地域、学校、教育行政が一体で取り組める環境がもっと醸成できればと考えます。

長く栄える厚東コミュニティ、子育て世代・若い世代の集まる厚東にしていく未来へのパスポートが

KOTO International Summer School “KISS”。 & 「KOTO 未来創生計画 (モノトーン KOTO)」の実現でもあります。

添付書類

助成事業決算書

帳簿（写）

その他事業の執行に必要な書類（写真等）